

令和5年度第1回さいたま市図書館協議会会議録

開催日時 令和5年8月4日（金） 10時00分～12時00分

開催場所 さいたま市立中央図書館 イベントルーム

出席者 (委員 ※敬称略)
馬場範明、大井睦、加藤路子、川田倫世、二宮奈緒美、石川敬史、石井正、
星野宏充、
(事務局)
杉本中央図書館長、宮野管理課長、
中島資料サービス課長、大橋北浦和図書館長、望月東浦和図書館長、
馬淵大宮図書館長、大木大宮西部図書館長、長谷川春野図書館長、
石井与野図書館長、村山岩槻図書館長、熊木桜図書館長、玉木北図書館長、
藤村武蔵浦和図書館長

欠席者 (委員 ※敬称略)
長束明美、森裕子、原修、関根規雄、安藤幸子
(事務局)
内田中央図書館副館長

公開・非公開の別 公開

傍聴人の数 0人

次第

令和5年度第1回さいたま市図書館協議会

日時：令和5年8月4日（金） 10時00分～
会場：さいたま市立中央図書館 イベントルーム

次 第

1 開 会

2 議題及び報告事項

- (1) 令和4年度事業報告について
- (2) 令和5年度（令和4年度事業対象）図書館評価について
- (3) 令和5年度の事業計画について

3 その他

4 閉 会

<配布資料>

- (1) 図書館協議会委員名簿 ……(資料No.1)
- (2) 令和5年度さいたま市図書館名簿 ……(資料No.2)
- (3) さいたま市図書館協議会 座席表 ……(資料No.3)
- (4) 令和5年度さいたま市図書館要覧

<事前送付済み資料>

- (1) 令和5年度（令和4年度事業対象）図書館評価について
- (2) さいたま市図書館協議会通勤手当等申告書

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・協議会委員の出欠確認

2 議題及び報告事項

(1) 令和4年度事業報告について

馬場委員長 令和5年度第1回さいたま市図書館協議会の議事に入ります。
議題及び報告事項について事務局から説明をお願いします。「(1) 令和4年度事業報告について」の説明をお願いします。

資料サービス課長 資料サービス課長の中島と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
それでは「(1) 令和4年度事業報告について」御説明させていただきます。
令和4年度の主要事業について、まずお手元の図書館要覧 29 ページ「さいたま市図書館の一年」を御覧ください。こちらに令和4年度に実施した主な事業について記載しております。

「1 さいたま市図書館における新型コロナウイルス感染症対策について」について、令和4年度においても前年度と同様閲覧席の間引きや消毒、カウンターパーテーションの設置、人数を減らしてのイベントの実施を行ってまいりました。今年5月8日から感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、利用者の皆様にお願ひする対応も終了となったわけですが、今後も感染症対策及び図書館サービスの継続を両立させるべく取り組んで参りたいと考えております。

「2 「さいたま市子ども読書活動優秀実践表彰」の決定及び表彰式の開催」について、昨年度新たに実施いたしました。子どもの読書活動に優れた実践を行っている市内の団体、保育所、学校等を表彰し取り組みの奨励を図ってまいりました。応募事例の中から特色のある優れた取り組みを行った8施設に表彰を実施したものでございます。例えば保育園が3施設子ども同士の読み聞かせ等を実施されました。学校が2施設全校ビブリオバトル等、子育て支援センターが1施設でこちらが親子でのわらべ歌をオンライン同時配信ということをされておりました。また図書館と連携したうらわ美術館、埼玉大学が各1施設となっております。

3項目以降ですが、御覧のとおり各図書館における記念事業や取り組みを実施しました。詳細については、時間の関係もございまして要覧の内容を御確認いただければと存じますが、その中で4項目と6項目、8項目について若干説明をさせていただきます。

4項目及び6項目につきましては、大宮図書館と埼玉歌人会の協同企画による歌人また短歌の講演と展示です。また春野図書館と大砂土東公民館や博物館等と連携し見沼区の歴史文化に関する講座を開催したものでございます。こうした関連団体や施設等と協働することにより、より魅力のあるイベントにすることができたと実感しております。

「8 さいたま KIDS 郷育 MOVIE プロジェクトの実施」について、令和4年度に教育委員会の他所管から引き継ぎ、北図書館を中心に実施したものでございます。こちらは北区の盆栽美術館等を会場にして中学、高校、中等教育学校の生徒11人参加のもとで生徒自ら映画製作を行い、子どもたちの創造力・企画力等を培う、また地域の文化や人とのつながりをもってわくわくするような学びが体験されたものでございます。

続きまして要覧31ページ「主な行事」を御覧ください。主な事業としては「さいたま市図書館」の2段目「さいたま市子ども読書の日一周年記念キャンペーン」でございまして、こちらが各図書館で7月21日から8月25日の間、幼児から小・中・高校生に向けた各イベントを実施しました。また中央図書館及び各拠点図書館におきまして、中・高校生対象の図書館ボランティア体験「さいたま・ライブラリー・サポーターズ」を引き続き実施しました。

先ほど関連事業を2点ほど御紹介しましたが、昨年度は各図書館においても連携事業を盛んに実施し、公民館への出張おはなし会等の児童イベントにつきましては北浦和図書館をはじめ7図書館で実施したほか公民館との連携事業は延べ30事業を行ってまいりました。また他にもうらわ美術館、鉄道博物館等と連携事業を行いました。詳細については一覧を御覧いただければと思います。

続きまして、令和4年度の実績について簡潔に御説明します。要覧50ページから72ページに各種統計データを掲載しております。この中で令和4年度の状況として、貸出数については令和3年度と比較して94.9パーセントと減少したものでございますが、来館者数については102.5パーセントと微増となっております。令和4年度については感染症の影響から世の中の状況が徐々に落ち着きを見せて市民の活動が活発になりはじめたところかと存じます。令和3年度は令和2年度の臨時休館等の影響から緩和され、図書館利用、特に本の貸出等が伸び、コロナ前の平成30年度を上回る貸出数となったわけですが、その反動として令和4年度はこれまで外出を控えていた方が活発にレジャーや行楽等の様々な行動変化があったので図書館資料の貸出が若干減少したのではないかと考えております。一方で座席の利用については可能な範囲で席数を戻しながら対応を行い、来館者数の維持につながったのではないかと分析しています。

続きまして、要覧31ページから42ページに令和4年度に実施した各種行事を掲載しています。感染対策として参加人数の制限や事前申し込み制にする等の対策を行ったうえでおおむね実施事業数はコロナ前の状況に戻ってきていると考えております。

また図書館からの広報について、要覧27ページから28ページにかけて令和4年度中に記者発表資料等の広報を行い、その中で各新聞に掲載された記事見出しについて26件を掲載しています。歌人の大西民子関連の記事が7件と

最も多く、つづいて中高校生の映像制作体験関連が4件と続いております。

続きまして、要覧43ページから45ページ図書館が発行した刊行物についてです。こちら図書館報「さいたま来ぶらり通信」また「本は王さま」「はび」等様々な年代の方への資料紹介等また各図書館の特色を活かした図書館情報等を掲載した冊子等を発行し多くの市民、利用者の方へ情報発信を行ってまいりました。

ただいま御紹介した内容の他に、テーマ資料展示の実施状況ですとかまた予算決算の報告等こちらの要覧に掲載してございますので併せて御覧いただければと存じます。以上令和4年度の事業報告をさせていただきました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

馬場委員長

議題及び報告事項「(1) 令和4年度事業報告について」の説明が終わりました。

各委員

これにつきまして、何か質問や御意見等がありましたら、お願いします。
(特に意見なし)

馬場委員長

ないようでしたら議事を進めたいと思います。

2 議題及び報告事項

(2) 令和5年度(令和4年度事業対象)図書館評価について

馬場委員長

それでは、次の、議題及び報告事項(2)「令和5年度(令和4年度事業対象)図書館評価について」の説明をお願いします。

春野図書館長

図書館評価専門部会で部会長を務めております春野図書館長の長谷川と申します。

それでは図書館評価につきまして御説明をさせていただきます。令和4年度の図書館事業を対象とする図書館評価の報告でございます。

本題に入る前に資料2点について説明をさせていただきます。はじめに「さいたま市図書館評価(令和4年度事業対象)について」を御覧ください。この資料は、さいたま市図書館評価票を事前に送付するにあたり、その経緯や評価票の見方等について御説明させていただいたものです。次に「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」を御覧ください。こちらは図書館評価を行う根拠となる要項です。この要項に示されている別表様式のうち、特に関係のある別表2をお示ししております。令和4年度から行っている第2期図書館評価より令和3年度7月に制定された「さいたま市図書館ビジョン(第2期)実施計画 前期」に基づき設定した17の目標ごとの指標について令和3年度から令和7年度までの目標値を定めています。

それでは令和4年度図書館事業に対する図書館評価の結果について御説明をさせていただきます。限られた時間になりますので主な箇所についての御説明になります。予め御了承ください。

それでは図書館評価票1ページ、目標「レファレンスサービスの充実による市民の課題解決の支援」の指標「レファレンス受付件数」です。実績値が81,065

件となり目標値に対する達成率は 62 パーセントにとどまり C 評価となりました。これはスマートフォンの普及によってインターネット利用の利便性が向上し、利用者自身が気軽に調べものができる環境となっていることも実績値が伸びなかった一因と考えられます。そのような状況でも対面をしないで図書館のホームページからレファレンスを申し込むことができるメールレファレンスの受付件数ですが、昨年度に比べても増加しており、平成 26 年度に比してほぼ倍の数になっています。調べものをするときにインターネット、スマートフォンを使うもしくは身近な方に聞くというのが一般的ですが、確固たる裏付けが欲しいというときは図書館の資料を活用した堅実なレファレンスサービスを必要としている方がいらっしゃいますので、堅実なレファレンスサービスの提供を充実させていく必要があると思います。

2 ページ、目標「市民の課題解決に役立てられる資料の提供」の指標「図書館資料の貢献度」です。この指標は毎年 9 月に実施している「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」において図書館資料がどのように役立っているかを質問してその設問に対する回答をポイント化したものです。この目標には 4 つの指標があり、それぞれの指標に対する平均値で目標の達成率を算出しております。4 つの指標すべてが目標値を上回り A 評価となりました。

3 ページ、目標「図書館利用に障害のある方への支援」の指標「バリアフリー資料の所蔵数」です。この指標は録音図書、点字図書、点訳絵本、大活字本、朗読 CD、LLブックの所蔵数を合計したものです。目標値にわずかに届かず B 評価となりました。

4 ページ、目標「専門的職員の養成による図書館サービスの質の向上」の指標「図書館専門研修の実施・派遣回数」です。コロナ禍で対面での研修の機会が減っていたなか、オンライン研修や e ラーニングでの研修が増えたことにより、参加しやすくなった状況があったと思います。その影響もあり実績値が 367 回となり目標値を上回り A 評価となっております。

5 ページ、目標「図書館評価と市民意識の反映」の指標「利用者満足度」です。この設問は「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」の設問で図書館の施設・設備について、案内表示のわかりやすさ、目的の本や雑誌・CD等の探しやすさ、職員の対応や説明、予約・リクエストサービスについての 5 つの項目における満足度を評価の対象としています。これらの項目で、「満足」と「やや満足」を合わせた割合を評価した結果、目標値を上回り A 評価となりました。

6 ページ、目標「市民の多様な要求にこたえる資料の充実」の指標「蔵書新鮮度」です。この指標は、年間受入冊数を全蔵書数で割った値であり、どの程度の割合で蔵書が更新されたかを測る指標です。令和 2 年度と令和 4 年度を比較すると、蔵書新鮮度に係る図書購入費が約 25 パーセント削減されていることも影響して実績値は 2.66 パーセントにとどまっています。結果目標値に届

かずC評価となりました。そのような状況ではありますが、図書館として市民が知りたい情報の提供を継続していくために、令和4年度は市民からいただいた寄贈本の受入れを20,300冊以上行いました。有効活用するとともに、アンケートの結果を資料選定の際の参考にする等して、幅広い資料の収集に努めているところでございます。

7ページ、目標「情報発信による図書館利用の促進」の指標「貸出総数」です。実績値が9,278,202点で目標値に届かずB評価となりました。コロナ禍で引きこもっていたなか、家庭でできることの1つに読書がありましたが、制限が緩和され、外出がしやすい環境になり、家庭で読書をするのが外に出る、例えば旅行とかレクリエーション観劇等外出の機会が増えたことも貸出人数が減って貸出件数が落ち込んだことも考えられます。

8ページ、目標「講座等の催しと市民の交流の場の提供」の指標「講座等の満足度」です。この指標は、令和4年度に実施した講座等の参加者のうちアンケートに記入いただいた計1,382名の回答を評価の対象としています。このなかで、「満足」と「やや満足」を合わせた割合を評価しました。概ね高評価となり、実績値は96.1パーセントと目標値を上回りA評価となりました。

9ページ、目標「資料の紹介による本との出会いの創出」の指標「テーマ資料展示の実施回数」です。実績値は817回となり目標値に届かずB評価となりましたが、その中でも多くの図書館でSDGsに関連したテーマ資料展示を実施しました。SDGsのテーマ資料展示は34回になっております。また、他機関との連携のなかでテーマ資料展示を実施する等幅広い資料の提供に努めました。併せて資料展示研修を毎年開催して新しく図書館に配属となった職員に対してテーマ資料展示に関わる職員の資質向上に努めているところでございます。

10ページ、目標「安全で快適な環境の整備」の指標「防災・消防訓練の実施回数」です。職員の常駐していない地区図書館を含めて全ての図書館で訓練を行った結果、実績値は46回と目標値を上回りA評価となりました。またその他に昨年度初めての試みとしてAEDの講習会も行いました。灯油や刃物をもった来館者への対応を学ぶ不審者対応研修を警察の協力を得て実施しました。併せて災害時等に安全を確保するための取り組みを行って利用者に安全で快適な環境を提供できるように努めました。

11ページ、目標「子どもの世界をひろげる資料の紹介」の指標「子ども向けブックリストの作成数」です。乳幼児、小学生、中学生、高校生、保護者といった世代に合わせたブックリストの作成ができた結果、実績値は71点となり目標値を上回りA評価となりました。

12ページ、目標「子どもが本に親しむ機会の提供」の指標「おはなし会の開催回数」です。これにつきましては、加藤委員、二宮委員にいつもお世話になっております。改めて御礼申し上げます。実績値は933回で目標値に対する達成

率は 84 パーセントとなり B 評価となりました。目標値には届いていませんが実績値・達成率・評価は令和 3 年度に比べてそれぞれ上昇しております。おはなし会を令和 3 年度令和 4 年度は事前申し込み制で実施しておりました。事前申し込み制ですとその場にいる方を会場にいざなうということができずに参加のハードルが高かったことが考えられますが、今年度それを従前のように戻せていけると思っております。それも含めまして今まで新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせていた図書館が再開したことも要因として考えられます。

13 ページ、目標「家庭・学校等との連携による子どもの読書活動への支援」の指標「読書が好きな子どもの割合」です。この目標は指標が 3 つありますがそれぞれの指標の達成率の平均値をもって目標の達成率を算出しております。小学生・中学生・高校生ともに目標値に届かず B 評価となりました。その中でもおすすめの本を紹介してもらった「ブックガーランド」や「冬の読書キャンペーン」や「ビブリオバトル」を実施する等して読書に親しんでもらうためにそれぞれの世代に向けた取組みを続けています。

14 ページ、目標「地域の歴史と文化の保存」の指標「地域・行政資料の蔵書数」です。実績値は 161,425 冊となり目標値にわずかに届かず B 評価となりました。その中でも地域資料の効果的な収集・保存のため、地域資料交換会を年 3 回行いました。各図書館で所蔵している地域資料の配置換えを 980 冊以上行い地域資料の有効活用と保存に努めています。特に合併前の行政資料が旧市の図書館に偏りがあり、解消を目指しています。これまで紙媒体で国や県が出していたものを電子媒体に落としているという状況もあります。

15 ページ、目標「市民との協働による地域交流の活性化と永続的な交流の場の提供」の指標「ボランティアとの協働事業数」です。これはさまざまなボランティアの方と協働で行った事業数を示す指標ですが、実績値は 79 事業で目標値に対する達成率は 69 パーセントで C 評価となりました。それでも令和 3 年度の実績値と比較すると 17 事業増加しております。特におはなしボランティアと定例で実施しているおはなし会の再開等が事業数の増加につながったと考えられます。またおはなしスタッフ養成講座や図書館友の会の会員によるおすすめ本の展示を実施する等図書館にかかわってくださっているボランティアの方々が活躍できる場を提供しているところです。

16 ページ、目標「市の各部署との連携による市民生活の向上」の指標「さいたま市との連携部署数」です。これはさいたま市の図書館以外の他部署と協働で行った事業数を示す指標です。様々な部署と連携することができ、実績値は 60 部署で A 評価となりました。

17 ページ、目標「県・他自治体・民間等との連携による市民の知的活動への支援」の指標「さいたま市以外の自治体及び N P O 等民間との連携機関数」です。これはさいたま市以外の自治体や N P O 等民間と協働で行った機関数を示

しています。実績値は 33 機関となり目標値を上回り A 評価となりました。学校や民間機関、ビジネス支援機関等さまざまな外部機関と連携した事業を行いました。

16 ページ、17 ページについて、図書館はどちらかというと静謐な読書環境の場でありました。それを例えば賑やかな場である公民館や民間企業と連携することで新たな学びの場の創出ができるのではないかと推し進めているところがございます。図書館にとっては連携しているそれぞれの部署の強みを活かしていたということもございますけれども、連携している部署においても今までアピールできていない層にそれぞれの事業をアピールできるという強みにつながっているのではないかと考えています。それがより幅広いサービスに提供できたものと考えています。

図書館評価の説明は以上です。

最後になりますが今後の予定でございます。「さいたま市図書館評価（令和 4 年度事業対象）について」を御覧ください。2 ページ目に本日以降の予定を記載しております。この後委員の皆様から御意見をいただければと思います。いただきました御意見を参考にしまして、決裁を経てこの評価票を成案とする予定でございます。その後図書館評価の実施の経緯から結果の分析までを行い、本日いただきます御意見の内容とともに報告書として提出いたします。次の第 2 回図書館協議会の場で説明したいと考えています。以上で説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

馬場委員長

はい、ありがとうございました。それでは議題（2）「令和 5 年度（令和 4 年度事業対象）図書館評価について」、説明が終わりました。これにつきまして御質問や御意見等がありましたらお願いいたします。石川委員。

石川委員

御説明いただきありがとうございました。前回もそうだったのですがさいたま市内でこれだけの図書館数とそして先ほど御報告いただいた数々のイベント、活動を継続して行っているというのは非常に高く評価できるのではと思って聞かせていただきました。何点か質問をさせていただきます。

1 つ目は前回もお話したかもしれませんが、今回の図書館評価は令和 4 年度事業対象の図書館評価になっていて令和 7 年度までの目標値が記載されていると思います。つまり、ビジョンの実施計画ということになると思いますが、今回御報告いただいたのが昨年度の報告と評価ということで、もう一つ中期的な視点で目標値を達成するために、どのような活動を展開するかということも併せて御報告いただいたり、来年再来年度に向けてこういうことが実施できるのではないかとすることがあってもいいのかなと思いました。すなわち数値目標固定になると思うのですが、子どものリストの配布があったと思いますが A 評価になっていたと思います。ここの数値目標を固定的に捉えるのではなく修正するとかもう少し中期的な視点で図書館活動を見通しをたてながら進めていくというのがあってもいいのかなというのが率直な感想です。

2つ目が、これだけの図書館数が多くあって在勤在住等たくさんの方が御利用なさっていて人口の流動がもちろんあると思いますが、図書館と市民との距離が遠くなっているような印象があります。印象論に過ぎないと思いますが、もっと言うと図書館員と市民との距離が少し遠くなっているのではないかなという印象を受けます。例えば利用者アンケート、前回の協議会の時もそうだったのですが、渡してアンケートを受けるということ以外に利用者対話したりお話をする機会をできるだけ積極的に作るというのがいいのではないかなと思っております。ですので、評価の数値目標で利用者評価満足度何パーセントでA評価B評価となったと思うのですが、それ以外に利用者ヒアリングをしたり子どもたちに図書館利用についての話を聞く場を作る等数量的な評価以外に定性的な評価やまたは定性的な報告や記録をまとめていくのがいいのかなと思ったところです。以上で2点意見になります。

馬場委員長
春野図書館長

これにつきまして、いかがでしょうか

石川委員から励ましの言葉といたしましうか評価していただきありがとうございます。

まず令和7年度までの数値目標なのですが、数値目標を立てたときに、当然図書館ビジョンに基づいているのですが、新型コロナウイルス等は当然想定していないです。その際に臨時の休館等で数値目標を補正することも検討したのですが、さいたま市の総合振興計画等も5ヵ年計画で補正はしないということでしたので数値目標をこのままとし、結果として一部数値が落ち込んでいたという状況です。またそれを好機として、ブックリスト等の印刷物を作成し、図書館に来られなくても読書の楽しさを恵与するそういったことを積極的に行っています。それについて、例えば防災訓練の回数は令和7年度の目標値50回となっております。こちら25館で2回ずつ行くと50回で既に目標値を超えているものだとか補正は令和7年度より後の図書館ビジョン実施計画後期を作るときに見直していこうと思っています。

また、委員御指摘の住民と遠くなっているということです。今年度感染症法上の位置づけが5類になり、子ども向けのイベントや小学校の図書館見学や中学校の職場体験等回数が増えたり、子どもたちから直接楽しかったというような声を聞いています。ただ残念なことに、図書館の利用は住民イコールではなく在勤学と広域利用があります。実は去年1年間実際に本を借りた市民の方は20パーセントに届いていません。今までの図書館は本と資料を結びつけるということに尽力しておりましたが、新たな学びの場ではないですけども、本を通じて人と人を巻き込むような過渡期に来ているのかなと思います。今までにないもの忘れ相談会を高年齢介護課や地域包括センターと協同で実施したり、不登校のお子さんたちに対するオンライン授業の手伝いをするとか新たに図書館にできることを積極的に検討していければと思います。

また最初にいただいた御意見になるのですが、数値目標を達成することが目

的ではございません。このビジョンに基づいて、色々な活動を行っていくなかでここは評価がAにならなかったから力を入れていこうとか、ここはAになっているけれど他にやり方がないのかなという次年度の図書館の運営に役立てるために行っていくのが図書館評価だと考えております。評価が目的でないということは重々承知しています。以上で回答になっているか分かりませんが回答とさせていただきます。

中央図書館長
馬場委員長
中央図書館長

補足をよろしいでしょうか。

はい、中央図書館長。

1つ目の御質問に対する補足です。確かに委員がおっしゃられた通り行政計画は5年間の数値目標を定めてどういうふうな形にしていこうかというのが資料に書かれているところと思います。ただおっしゃられているところは非常に納得するところがございます、目標が活字で書かれているなかで、5年後の姿はどうかということが本来先にあってそのために5年間のステップをどうしていこうかということのほうが、おそらく皆様方に御説明するには納得して聞いていただけるような内容になると思いますので、次期の5か年の計画の中では目標を定めていくなかで、5年後の姿はこういう形でありたいということの中で、今どういうステップでどういうような途上になっているのかということをも可能な限り数値に基づいた説明ができるように工夫をしていくべきなのだろうと考えております。次期に向けて検討していきたいと思っております。

馬場委員長
星野委員

他に御質問等ございますでしょうか。星野委員

先程評価の中身を聞いておまして、「つながりから地域の未来をひらく」の評価項目の中の各種団体とのコラボによって活動量が令和3年度に比べて飛躍的に伸びている。行政施策のイベントは人がほとんど来ないんですよね。私も経験者ですからよくわかります。そういった意味で魅力のある企画をして子どもだけでなく親子で来て、世代を超えた共通点としての魅力を発信することが興味を湧き立て、ひいては次のステップとして図書館に行っていくことをしたらいいのかということにつながってくるのではないかと思います。4項目と3項目は被ってくる部分もあったと思います。相互連携をして相乗効果で図書館利用率を向上させるということも十分ありえるかなと思います。他県や都の格が桁違いの来館者数を誇る図書館の事例を見るとやはりレファレンスが非常に重要な骨格だと思いますが図書館機能を他の機能と複合的に利用することによって来館者を飛躍的に向上させていく事例も多々見受けられます。そういう意味では「つながりから地域の未来をひらく」という項目は図書館の利用数、利用率等を高めるためのキーポイントになる可能性が高いのではと思います。こういったことをもっともっと充実させることによって親子で興味を湧き立てて一つの飛躍のステップにするということもありえるかなと思いますので私の意見として述べさせていただきました。

春野図書館長

星野委員ありがとうございます。御指摘のとおり令和3年度から令和4年度

にかけて飛躍的に連携部署数が伸びております。こちらは目標値を立てたときに比べて公民館と図書館は同じ社会教育施設ということで、連携に力を入れていることに加え、あまり図書館とコラボレーションしていなかった部局も新たな顧客として求めているような実感をしております。御指摘いただいたとおり連携については継続して取り組んでいきたいと思っております。

また御指摘いただきました年齢間の交流について、今図書館ではできていないところもあろうかと思っておりますが、図書館友の会というボランティアの方がライブラリー・サポーターズに来ている中高生とお話をする等全くないわけではございません。その辺りについては今後の課題になるのかと思っております。

資料サービス課長

貴重な御意見いただきましてありがとうございます。それぞれの対象に沿った事業計画というのはこれまで多く行ってきたところではございますが、親子で参加する、世代間交流、そういったものをテーマにした行事を多く設定するのはなかなか難しいところではございますが、貴重な御意見だと思います。世代間交流というのは、特にここ何年か全国的に読書離れ、やはり図書館の利用が減っている状況があるので、それを改善することでさまざまな世代間、親子での交流や高齢者の方と子どもの交流等これまでにないような展開を行っていくのはキーポイントだと私も感じております。どういった施策を行っていくかは検討していきたいと思っておりますが、いただいた御意見を参考に展開していきたいと思っております。

馬場委員長
大井委員

ありがとうございます。それでは大井委員。

これまでの御意見に加えて非来館者の発掘にあらゆる手段をもって力を入れるべきだと思います。その1つとして毎回申し上げているような気がしますがけれども非来館者へのアンケートです。なぜ図書館に来ないのか、遠いのか、高齢で昔は行ったけれどももう行かないのか、なぜ図書館に来ないのか来られないのかということをもっと掘り下げてどのように調査するのかということをもっと慎重に検討していただければと思っております。距離的な問題はおそらく解決しやすいのではないかと思います。何より図書館がこれだけの数ページにわたるイベントをしている、多方面に渡る部署と協同してみなさんの役に立つことをこれだけしている、資料を用意しているということももっと遠慮なくPRしていくことがさらに必要だと思っております。興味のない人はそもそもホームページも見ないでしょうから、あらゆる手段を駆使して図書館はこういうところである、皆さんの役に立つ、課題解決の役に立つ等ということをもっともっとPRしてもよいのではないかと思います。

それと少し細かいことですが、大宮図書館長、近くに日本語学校があるということは存じませんでしたが200冊以上外国語資料を受け入れたということで、学校に対してここに公共図書館があるということ、そこにこんな資料があるということ等を学生さんに分かる形でサインまたはPRしているのでしょうか。していないのでしたら積極的に図書館があるということこんなものがあ

るということを他の言語でサインを作っていくことそう大変ではなくできるのではないかと期待したいと思います。

また、「専門的職員の養成による図書館サービスの質の向上」ですけれども、これは前回石川委員もおっしゃっておられましたがやはり専門職採用の復活をしていただきたいです。専門的知識のある職員に対して、専門的な研修を重ねれば更に良い政令市らしいサービスができるのではないかと思います。

「安全で快適な環境の整備」について、今は小学校でもまさかというような事件が起こる時代になってしまいました。公共図書館も図書館に行く人は真面目でおとなしい人ばかりだという意識はもう無かろうと思いますが、図書館は決して安全な場所ではないということ、それに対応してこのように研修をしてくださったことは非常に利用者としてまた市民としてとても心強く思っております。大変ですけれども細やかな対応をお願いしたいです。

「子どもの世界を広げる資料の紹介」について、私はさいたま市の子ども向けブックリストは非常にレベルが高いと思っております。色々な自治体のブックリストを拝見する機会が多いですけれども、新刊に偏っていない定番のものも載っているということもやはりさいたま市としての伝統的なレベルの高さを感じるところです。今後ともよろしくをお願いしたいと思います。

「家庭・学校等との連携による子どもの読書活動への支援」について、これは学校司書を正規でフルタイムの任用でお願いしたいです。例えば政令市で公立の小中学校に正規の学校司書がいるかという事例は不勉強で存じません。もしないとしたら、さいたま市がかつて文教都市と言われた浦和市もあることですし、先んじてそれを解消していく。およそ学校で我々が教わる科目で図書館を必要としない科目がひとつもない、そして学校図書館の目標はまず学習活動のバックアップが第一にくるだとしたら先生方がいらっしゃる時間学校図書館に司書がいる、子どもに対応できる専門知識も十分にあるそれがどんどん鍛えられていくという状況にあってほしいと思います。もし先んじてやっているところがあるのであればさいたま市も続いていただきたいと強く思っています。

以上です。よろしく申し上げます。

資料サービス課長

大変参考になる御意見ありがとうございます。まず来館しない方がどう図書館に来ていただくかは私どももどのような方法でやっていくのかを大変頭を悩ませているところでございます。来館されていない方というのが8割以上います。その方たちに図書館の情報が届く、またなぜ図書館を利用しないのかを問うということは大変重要なことだと認識しております。何かしらの方法で展開することを模索していきたいと思っております。

また基本的な問題についてのPRですが、やはり来館しない方は図書館に全く関心がなく、SNS等で情報を入手するのが一般的でございます。そういったなかで図書館で使えるツールとしてツイッターがあり、様々発信をしている

ところでございます。発信の方法はイベントのPRがメインとなっております。また図書の展示はこういった本がありますという紹介がメインになっております。図書館はこういういいところなのでどんどん使ってほしいというPRがまだまだ足りないのかなと実感しております。そういった部分もツイッターで発信し、ハッシュタグ等を活用しながら図書館はこういったことがあるんだなど引っかかるように工夫していきたいと思っております。

続きまして専門的職員の養成につきましては、今後も図書館職員の専門性を高める取り組みということで引き続きやっていきたいと思っております。また、学校との連携でございますが正規の学校司書ということで教育委員会各部局と情報共有してこういうお声があるということを伝えながら前進できるようにしていきたいと思っております。図書館としては各学校に学校図書館支援センターから各教科で必要なものをセンターの要望に基づいて提供していくところです。学校の授業で使われるための図書館の資料をお貸しして授業に役立てていただくということをしております。こちらにも継続していきたいと思っております。

大井委員 教えてください。今でもさいたま市の学校司書は1日6時間、週4日でしょうか。

資料サービス課長 申し訳ございません。学校司書については他の部署につき私どもも勉強不足で把握しておりません。

馬場委員長 私も考えたのですが、図書館に来ない方向けのアンケートをどうするかという話ですけれども、校長先生が来る機会があるのかなと思っておりますが、そのような時に校長先生に学校の状況を聞き取る等簡単なアンケートをお願いして集めるというのは可能かどうか分かりませんが、考えていただけたらどうかと思います。

資料サービス課長 御意見ありがとうございます。学校教育部や学校現場と協力させていただくのは大変有用なことかと思っております。学校も様々な業務に追われて工夫をされているところだと思います。こちらにも高校へのアンケートや、学習状況調査で図書について聞かれている項目も参考にさせていただいているところもでございます。なるべく先生の負担にならないような形でいい方法がないか模索していきたいと思っております。どうもありがとうございました。

馬場委員長 よろしくお願いいいたします。他にありますでしょうか。

春野図書館長 副委員長御指摘の非来館者に対するアンケートについて、現状の利用者アンケートは来館した方が手に取って書くというようになっていますが、昨年度からインターネットでのアンケートが千件を超えたと聞いています。ただ、興味のない方はそもそもアンケートに答えないので、実施している自治体は無作為に抽出してアンケートを送っているようです。今すぐにとというのは難しいかと思っておりますけれども、これはずっと続いている課題でいかに図書館に来ていただけるかということだと思います。

小中高生へのアピールについて、調べ学習をすべての教科にという話があり

ましたけれども小学校2年生で図書館のことを学び、見学もあります。更に小学校3年生で「まちたんけん」があるのですが、本が好きだけど高く買ってもらえないという児童生徒がいることも聞いております。図書館は無料で貸し出しができる等基本的なことを含めてアピールしております。また、さいたま市は一人一台オンライン授業用の端末を貸与しております。その端末を使っておはなし会をしていますとかキャッチーなものを流したり、調べ学習や自由研究等に使っていただく、そしてそれを図書館の本で補完する等対児童生徒に対して新たな形のものと考えていけないのかなと思っております。委員長御提案ありがとうございました。

馬場委員長

ありがとうございました。時間が押してまいりましたので、以上とさせていただきます。以上で議題及び報告事項(2)につきまして、御承認いただいたということでよろしいでしょうか。

各委員

(特に意見なし)

馬場委員長

それでは、議題及び報告事項(2)につきまして、本協議会で承認いたします。まだ課題もございますけれども、引き続き御検討をお願いいたします。

2 議題及び報告事項

(3) 令和5年度の事業計画について

馬場委員長

続きまして、議題及び報告事項(3)「令和5年度の事業計画について」の説明を事務局からお願いします。長くなるようでしたら、着席していただいて結構です。

資料サービス課長

それでは議題及び報告事項(3)「令和5年度の事業計画について」御説明をさせていただきます。

令和5年度につきましてもさいたま市図書館ビジョン(第2期)の基本理念「本と人 人と人が出会う 『知のひろば』」のもと4つの基本的方向性に基づいた取り組みを実施してまいります。

これから主要な事業について御説明をいたします。まず、図書館の資料収集保存につきましては、幅広く多様な資料を収集してまいります。非来館型サービスの充実を進めるため、引き続き電子書籍を千点購入してまいります。また、さいたま市行政資料の漏れのない収集に資するために市の各課の協力をいただき発行物の調査を実施して現在収集に努めているところでございます。更に障害のある方へのサービスとして、点字資料や図書の内容をデジタル録音した電子図書の充実を図る等あらゆる方に図書館を利用していただく取り組みを進めてまいりたいと思っております。

次に、さいたま KIDS 郷育 MOVIE プロジェクトについて今年度も実施してまいります。今回は北浦和周辺地域での撮影を今月9日及び16日に予定しております。こちらは定員を上回る申し込みがあり、参加する生徒さんも積極的に活動していただけるものではないかと期待しております。

続きまして一般の方対象の事業として鉄道、生涯学習、読書活動推進等各種

の講座を実施して生涯学習の場を提供していくとともに昨年度中央図書館でも開催した情報の探し方講座を予定しております。こちらはパソコンを使い、御希望になる参加者の方とほぼマンツーマンで職員がお教えし、一緒になって講座をするというものです。情報拡散の対象になる取り組みとして進めてまいりたいと思います。

子ども読書活動の推進につきまして、定例のおはなし会こういった行事を継続していくとともに特色のあるイベントを実施してまいります。例えば図書館ボランティア体験「リブサポ」を7月27日から8月末にかけて実施をしている最中です。また知的書評合戦「ビブリオバトル」こちらは参加者が読んで面白いと思った本を一人5分で紹介し、どの本が一番読みたくなったかを参加者・観戦者の方が多数決で選ぶというイベントです。こちら先月実施し大変好評をいただきました。また「アニメーション」子どもたちにあらかじめ物語や詩等を読み聞かせをして、その後間違い探しやクイズ等を出題するイベントです。このような子どもたちが読書をより好きになるようなイベントを開催してまいります。

昨年度に続きまして各図書館におきましても冬休みを中心に同時期に取り組みを強化する「冬の読書キャンペーン」を実施していくとともに、今年度また夏休み期間中に「子ども読書の日サマーキャンペーン」として「ブックギャラリー」という、壁に旗のように吊るしてそこに子どもたちの感想を掲示するものになります。これらにより読書活動の推進に努めていきたいと思っております。保育園や児童センター等関連施設と協力しながら進めていきたいと思っております。

また、職員の資質の向上について、職員を対象にした研修を実施してまいります。レファレンスや著作権またデータベースの取扱いや防災訓練、消防訓練等を行い利用者に対する適切なサービスや安心安全な図書館環境の提供を行ってまいりたいと思っております。

最後に、図書館リフレッシュ事業について今年度は図書館リフレッシュ計画に基づく修繕はございませんが、2館において修繕の事業がございますので御報告します。まず、岩槻図書館が岩槻本町公民館との複合施設になっており、現在公民館のエレベーター新設工事を行っております。このために騒音や振動が起こる関係で図書館公民館の利用者の安全のために6月1日から8月31日まで臨時休館とさせていただきます。利用者の皆様には岩槻駅前にある岩槻駅東口図書館を利用いただくよう御案内しているところです。

また、与野図書館について既存のエレベーターが老朽化している関係で利用者の安全のためエレベーター工事を実施します。工事の予定につきましては、1月15日から3月4日を予定しております。工事期間中は利用者の方の安全確保のために、臨時休館をさせていただきますが、入り口付近に臨時窓口を設けまして、資料の返却や予約・貸出を行うことにより可能な限りサービスの低下を抑えるよう配慮していきたいと考えております。

以上、事業計画の主な点を御説明させていただきました。どうぞよろしくお願いたします。

馬場委員長

これにつきまして、何か御質問や御意見がありましたらお願い致します。石井委員。

石井委員

全般的に皆様方色々な取り組みをされていて、特に地域との連携に努力をされていることがよく分かりました。

今後の展開ですけれども、まずメディアの立場として図書館は少し敷居が高く、8割の方が来たことがないという現状が少しもったいないと思います。PRという視点から考えますと、まず存在に気付いてもらうという第1点、第2点が「おや？」と踏み込んでもらう広報やPR、第3点が好きになってもらうということです。この要素が絶対的な必要条件です。その上で、必要な努力をされているというのがよく分かりましたので、今後の希望としましては、敷居を少し下げるという意味で和歌という世界で集客をはかる、大西民子さんというキーワードがあるのでそれがひとつのきっかけになると思うのですが、高齢者の世界で話をすると川柳が人気があります。スピーカーになっていただけるような方の発掘も含めて努力をしていければと思っています。

もう一つの希望は、この冊子の中にも書いてありますが、ICTについて、ITがこれだけ進歩しておりますので、先程の御説明にもありましたツイッターに引っかかるようにその中で必要なのは先ほどの第1項目として挙げたおや？と思わせる、こっちに振り向いてもらう、という意味ではアイキャッチなものが何か欲しいなど、これは具体的な例示が出せず申し訳ないのですが、それを出していきたいという感じがしています。それはひょっとすると川柳だったり大宮アルディージャの選手だったりそこら辺の連携を考えると踏み込んでくるのかなと思います。という感じで、全般的には大いに評価しておりますが、今後のために我々と一緒に利用者の方が踏み込んでくるような工夫をしていければと思っています。

資料サービス課長

石井委員の御意見、今後の図書館運営にとっても参考になる内容だったと思います。ありがとうございます。やはり「おや？」と思わせる図書館の取り組みについて視点を変えてさいたま市の資源を使い、大西民子や川柳というようなキーワードが皆様の御意見を伺い、我々が思い浮かばないようなワードを使って展開していきたいと思います。どうもありがとうございます。

馬場委員長

他にありませんでしょうか。石川委員。

石川委員

事業計画のお話をいただいたのですが、できれば配布資料をいただいて今年度どういうことをやるのかというのを委員の皆様事前に周知すべきではないかなと思います。今のお話ですとメモを取りきれないですし、今年度既に進んでいるものもあると思うのですが、今年度何を行うかは先程の前年度の評価に係ると思います。計画であれば明記してお示しいただきたいというのが1点です。

2点目は電子書籍千タイトルという話があったと思いますが、各公共図書館が電子書籍の利用の伸びが停滞して苦労しているというのがあると思います。ここをいかに電子資料に結び付けていくのか、先程石井委員の話にもありましたが、利用者へのプロモーションが非常に大切になってくるのかなと思います。ただ導入するだけでなく、それをどのように周知していくのかというのがとても大切かなと思います。

3点目は先ほど市民と図書館の距離が遠くなっているという話があったのですが、今回いただきました要覧を見ていきますと移動図書館の利用が随分伸びているのかなと思います。貸出冊数が伸びていたと思います。平成30年、令和元年から随分伸びているのかなという印象がありました。政令指定都市で図書館車を見ていくと横浜市が1台増加していますし、仙台市は3台図書館車を持っている等他市を見ていくと図書館車を保有して積極的に展開しているところがあると思います。つまり、利用者がいるところに打って出ていく、人がいるところに図書館を届けるといったときに、図書館という概念をどう拡張させていくのか、何か図書館を移動させていくような観点がこれから求められていくのかなと思いました。以上3点になります。

資料サービス課長

ありがとうございました。まず、配布資料につきましては申し訳ございません。昨年同様のやり方をとってしまいましたので、配布資料という形をとらなかったのは大変申し訳なく思います。次回から配布資料をつけさせていただくようにいたします。申し訳ありません。

また、電子書籍についてなかなか伸びが悪いというお話をいただきました。確かに今回コロナ禍におきまして、図書館を休館したところもございまして、それ以降も来館が難しい市民の方にとっては電子書籍を効果的に利用することができたと思います。数字がすぐに出てこないのですが、おかげさまで3倍5倍くらいになっていたと記憶しております。こういった状況もありまして、今後展開するうえでPRに努めるという点では先ほどツイッターの話をさせていただいたのですが、ホームページ上で電子書籍に入りますと新しく入った本をPRしております。ただそこに行かないとというネックがありますので、もっと分かりやすくPRする方法を検討する必要があるのかなと思いました。

3点目ですが、移動図書館車が伸びているということで、確かに外に出ていく、図書館のサービスポイントを増やすというのは図書館の使命でもあり、課題でもあります。実際館数が増えているわけではないので、その中で移動図書館車を広く展開していくというのは確かにキーワードかなと思っています。ただとてもお金がかかるので、どのように運用していくのかは参考意見として今後の展開をどうするか真摯に検討して参りたいと思います。

大変貴重な御意見ありがとうございました。

馬場委員長

ありがとうございました。議論が尽きませんが、時間も押していますのでここまでとさせていただければと思います。それでは、議題及び報告事項

(3)につきまして、御承認いただいたということではよろしいでしょうか。
各委員 (特に意見なし)
馬場委員長 それでは、議題及び報告事項(3)につきまして、本協議会で承認いたします。

3 その他

馬場委員長 それでは本日予定していました議題は以上で終了いたしました。事務局の方から何かありましたらお願いいたします。

管理課長 事務局からの報告事項は他にはございません。

馬場委員長 委員の皆様から他に何か御意見等がございましたらお願いします。

石川委員 前回のさいたま市図書館協議会会議録が郵送されてきたのですが、確か自分の発言したところを私は確認せずに発行されていたかなと記憶しております。もし可能であれば修正していただきたいのですが。私の発言部分が司書職の採用、司書職というのをどのように展開していくのかということについて、司書作業という風に書かれていてこちら市民の皆様から誤解を受けるかなと思っております。こここのところを修正していただきたいというのがあります。

管理課長 大変失礼いたしました。しっかりと修正させていただきます。

馬場委員長 以上で本日の議事を、すべて終了いたしました。

長時間にわたり御審議賜り誠にありがとうございました。なお、本日の協議会をもちまして、第11期の図書館協議会としてお集まりいただくのは最後となります。

最後に、委員を代表いたしまして挨拶させていただきます。

コロナウィルスが2類から5類となりまして少しばかり落ち着いてきたところかと思えます。図書館の活動も中止になったり制約を受けてきたところがあったわけですが、それらの活動も徐々に再開となってきております。図書館活動は何よりも創造性が求められる活動だと思いますので、今後とも有用な図書館活動ができますようにこれからも頑張りたいと思います。本日はありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

4 閉会

管理課長 馬場委員長、ありがとうございました。

本日は、委員の皆様方から貴重な御意見また御提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

ここで、第11期図書館協議会としてお集まりいただくのは最後となりますので、中央図書館長より御挨拶を申し上げます。

中央図書館長 この2年間に渡り馬場委員長をはじめとして各委員の皆様方に様々な御協力いただきましてありがとうございます。この2年間というのは私が申しあげるまでもなく、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間でございました。報告の中にもありましたけれども、図書館としても様々な工夫をしながら

図書館活動というのを続けてきた、また社会全体としても工夫をしたり、昨今よく言われているデジタル技術の活用等をして新しい生活様式・新しい行動様式の中で何とか社会生活を維持してきたと考えています。

今委員長もおっしゃられていましたが、感染症法上の類型が5類になったとしても新型コロナウイルスというのは依然として存在しております。ニュースにもあるように埼玉県内も増加傾向にあるようです。ただそういった中でも元に戻していく、あるいはコロナ禍を経てステップが上がった行動様式というのを市民の皆様方が身に付けられていると思っています。そういった中で、図書館も一つステップが上がった市民の方々に対してどういった形が有用なのか、どういう機能を求められているのかということは今後様々に深く検討して参りたいと思います。これにつきましては第12期の協議会を組織させていただくのですが、そういったなかで議題として御提示したり、御議論いただきたいなというふうに思っております。その際には皆様方におかれましても様々な御見解をいただければと思っております。

結びになりますけれども、改めまして2年間本当にありがとうございました。皆様方におかれましては御健勝にて益々御活躍いただけることを御祈念いたしまして結びの御挨拶とさせていただきます。改めまして本当にありがとうございました。

管理課長

以上を持ちまして、第1回図書館協議会を閉会いたします。お帰りの際、通勤手当等申告書をお持ちの方は、事務局にご提出ください。本日は誠にありがとうございました。